

石高神社報

第十九号

発行日 平成十三年十二月十五日
発行者 石高神社 宮司 高原 章兆
発行所 岡山市円山八五三

社殿修理について

秋の総代会で本殿の縁と千木・鯉木の修理をすることに決まりました。当初の計画では社務所の再建を行う予定でしたが、宮司の本殿縁からの落下事故や経済情勢の悪化、また市の下水道工事遅延のために水洗便所ができない等の理由から、多額の費用を要する社務所再建は延期することにしました。

昨年夏の輪くぐりの前に宮司が本殿に幕を張っていたところ、縁の板が抜け落ちて落下するという事故が起きました。万歳の姿勢で作業をしていましたので、抜け落ちた板とともにすっぽりと落ちましたので、幸いなことに打撲程度ですみましたが、一歩間違えば大事故にもなりかねない状況でした。この場所は直後に応急修理をしましたが、まだ安心できない状態です。この縁をドンドンと音をたてて走っている子供の姿をたまに見ることもありますが、落差が一メートル以上ありますので、下まで落ちると大変危険です。もちろん御本殿の縁は遊ぶ場所ではありませんが。

また、本殿屋根にそそり立っている千木が一本折れています。結構大きな物で、銅板を巻いていますが、これが落下すると大変危険です。千木が腐っているということは鯉木も傷んでいると思われます。

早速、工事を地元の新東住建工業に発注しました。趣意書を作成して来年春にご寄進のお願いに伺う予定にしておりますので、その節は何とぞよろしくお願い申し上げます。

石高神社の建物① 本殿

現存する建物は本殿・幣殿・釣殿・拝殿および隨身門です。神饌所兼社務所や絵馬殿もありましたが、ご存知のように現在はありません。

当社には正徳五年（一七一五年）からの棟札が保存されており、まず正徳五年に本殿が造立され、天保十年（一八三九年）に拝殿・幣殿が造立されたものと思われます。今回は、平成八年発行の「岡山市の近世寺社建築の調査報告書」を以下に引用して本殿の紹介をします。

「千鳥破風と軒唐破風を重ねた複雑な屋根は、もとは檜皮葺である。穴のくりぬかれた木鼻や向拝の中備彫刻の裏面を波模様のみとすることなどに典型的



な幕末の意匠が見て取れ、虹梁形頭貫や海老虹梁の木鼻彫刻の優秀さや、中備の龍の彫刻に合わせその下の虹梁形頭貫前面に流水文様を彫る心配り、複雑な屋根を破綻なく納める腕前などに大工の優秀さが窺われる。この時代の神社本殿建築の典型といえよう。現本殿の建立は天保十二年と明治二年の可能性があるが、様式からみると前者ではないかと思われる。」なお、今の銅板葺きの屋根は昭和四七年に施工したものです。

石高神社のおもな行事

歳旦祭および初詣

一月一日午前零時より歳旦祭を行います。この直後、または三が日の午前九時ごろから夕方まで新年の家内安全祈禱を行います。来年は屋台が出る話も進んでいます。

どんど焼き

平成十四年は一月十四日午前十時より境内にて正月のお飾りを焼くどんど焼きを実施します。合わせて古札焼却も行います。なお、最近問題になっているダイオキシン発生の観点から、プラスチック類はなるべくはずしてご持参ください。

厄払い

厄歳、祝歳の方は二月一日または正月三が日、一月中の休祭日にお参りください。

輪くぐり(夏祭り)

年の前半の罪・穢れを祓い、疫病から身を守る祭りです。七月三十一日の晚六時ごろから九時前までにお参りください。

事前に配布された「ひとがた」に家族の生まれ歳の干支、男女の別などを書いて身を払ってご持参ください。夜店も出て賑わいます。

秋祭り

十月三日から五日までが秋祭りです。三日の晩が氏参りの日になっており、この日は夜店やはっぴ姿の子供達と賑わいます。晚六時ごろから八時半頃にお参りください。

七五三詣で

氏神様にお参りし、ここまで成長したお礼を言い、以後の無病息災を祈願します。十一月の休祭日にお参りください。

その他、初宮参り、当病平癒祈願、自動車清祓、家祈禱、地鎮祭等随時致しております。

後記

不景気とテロという暗いイメージで今年一年が終わろうとしていました。が、内親王様のお誕生という明るいニュースでなにやらほっとしたような気分です。新しい年がよい年になりますようお祈り申し上げます。

